県立広島病院広報誌
もみじ
第47号
2013.1.1
発行

県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 （URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

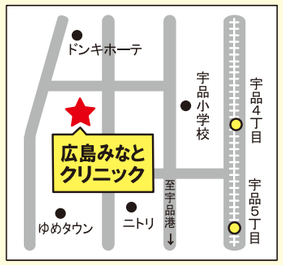
連携医院のご紹介

今回は、患者さんの話にできる限り耳を傾け、様々なニーズに応えられるように総合的な診療を心がけておられます広島みなとクリニック、熊谷元院長先生です。

熊谷先生

広島みなとクリニック

〒734-0014
広島市南区宇品西5-12-46
電　話／082-881-2525
院　長／熊谷　元
診療科／内科・外科・整形外科



○いつ頃開業されましたか。

平成20年12月、この地に開業しました。当時はまだまだ発展途上の土地でしたがずいぶんと開け、人口も増えてきました。

○開業されてから今までの主な取り組みをお聞かせください。

開業してから日曜診療と往診を続けております。往診は昼休みを利用して取り組んでいます。また、平成24年9月にはMRIを導入し、脳ドック等の対応も可能となりました。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

様々なニーズに応えられるように、そして、患者さんの負担を考えてできる限り診療が1箇所ですむように、総合的な診療を心がけております。また、そのために、できる限り患者さんの話に耳を傾けたり、"触れて診る"ことも大切にしております。さらに、予防にも力を入れており、検診や様々な医療器具を使った健康・体力づくりも行っております。

○開業医としてやりがいを感じるところはどんなところですか。

勤務医時代と違って、多くのことを自分がしなければならない分、自分のやったことに対して成果が上がった時には嬉しいですね。自分がやりたいと思っていることを実現していけるところがとてもやりがいにつながっております。

○県病院について，ひとことお願いします。

対応が親切だと思います。また、地域連携システムには期待しております。患者さんの負担につながるような無駄な検査を省略し、情報の共有ができればと思います。

広島みなとクリニック外観

【取材後記】

院内外の配色はナチュラルカラーに統一されてとても落ち着いた雰囲気で、バリアフリーの構造にも、お体が不自由な方への配慮が感じられました。また、熊谷院長先生のお誕生日という貴重な日に取材をさせていただきました。おめでとうございます。

県立広島病院からのお知らせ

広島在宅緩和ケア事例検討会

とき 平成25年1月11日(金) 19:00～20:30
ところ 中央棟2階　講堂
テーマ 緩和ケア病棟と自宅との入退院を繰り返した一事例
対象 医療従事者 及び その関係者
共催 広島市南区医師会
問合せ先 総務課管理係（担当:藤原）TEL:082-254-1818 内線（4273）

がん医療従事者研修会

とき 平成25年1月21日(月) 19:00～20:30
ところ 中央棟2階　講堂
テーマ がんの画像診断について
講師 消化器･乳腺･移植外科主任部長　漆原　貴
放射線診断科　主任部長　小林　昌幸
対象 医療従事者 及び その関係者
問合せ先 総務課管理係（担当:藤原）TEL:082-254-1818 内線（4273）

※詳しくは県立広島病院ホームページへ 県立広島病院 で 検索 （URL:http://www.hph.pref.hiroshima.jp/）

外来診療のご案内

診察受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※午後の診察は科によって異なります。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始（12月29日～1月3日）

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか 2,620 円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。
予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなることがありますので、ご了承ください。

頌春

院長撮影：「雲海」

明けましておめでとうございます。

皆様には新しい年をどのようにお迎えになりましたでしょうか。

少子高齢化が進むなかで、だれもが元気でありたいと願っておられます。

当院は、今年も皆様のために、かかりつけ医の先生方と共に地域の医療を支えてまいります。

地域の医療・福祉関連の皆様からのご支援・ご指導を宜しくお願い申し上げます。

平成二十五年　元旦

県立広島病院院長
桑原　正雄

ペットを飼う前に

呼吸器内科・リウマチ科主任部長
土井　正男

『感染症』と『アレルギー疾患』

呼吸器内科の診察において、ペットに関する質問をすることをご存じでしょうか？これはペットを飼うことにより引き起こされる呼吸器疾患があるからです。それらの疾患を大きく分けると『感染症』と『アレルギー疾患』のふたつがあります。

『感染症』として知られているものに「オウム病肺炎」があります。これは室内で飼育しているインコなどがクラミジアという病原体に感染し、飼い主がその鳥の糞などに紛れた病原体を吸入し起こす肺炎です。猫や犬からうつる可能性があるのは、かまれたり、ひっかかれたりすることで感染する「パスツレラ症」や「猫ひっかき病」があります。

『アレルギー疾患』としては、気管支炎や気管支喘息があります。家族内（親、兄弟、子供）に気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎などがいる人やそれらの疾患を持っている人（アレルギー素因をもつひと）には室内でペットを飼うことはお勧めできません。ハムスターやウサギ、犬、猫などのペットを飼い始めて2年以内にせきや"ゼイゼイ"などの症状が出ることが多いと思います。

ペットも家族の一員だワン

ペットの健康状態をよく観察し、ある程度距離を置く。

近年のペットブームに伴い、様々な動物をペットとして飼う方が増えてきました。飼育環境が屋外から屋内へ変化することにより，ペットから人間に感染する可能性も高くなります。口移しで餌を与えたり、顔をなめさせるなど過剰な接触を避け、食べ残しの餌や抜けた毛，糞尿などはすぐ掃除し、飼育場所を清潔に保つことが大事です。 持病がある高齢者、抗がん剤などの薬剤を服用している人はペットを飼う前に家族で十分話し合いをして下さい。

よりよい関係でいられる様に、生活環境を見直しましょう。

ペットといっても私たちを癒してくれる家族の一員です。ペットとの接触に過剰になるのではなく、感染症のリスクがあることを知り、体に異変が出た場合はすぐに病院に行くことを心がけて下さい。

県病の星　救急看護認定看護師

救命救急センター主任　村上　毅

1997年に初めての認定看護師が誕生しています。現在は多くの分野の認定看護師が存在し、全国で10,000人を超えています。救急看護認定看護師は最初に誕生した分野の一つで、現在、全国には700人を超える救急看護認定看護師が存在します。

認定看護師は特定の教育機関で定められた期間の研修を受け、特化した知識や技術を身につけ看護実践や指導などを行います。私は現在、救命救急センターで勤務しています。日常は医師など専門的な知識や技術をもとに救急外来に来られる緊急度の高い救急患者さんへの対応や、集中治療室の患者さんのケアを行っています。また、時には、消防ヘリコプターや救急車にて病院の外へ出向くこともあります。また、災害が発生して間もない時期に活躍する災害対応チーム（DMAT）にも所属し活動しています。そして、病院内のみでなく大学や看護協会、他病院で開催される救急に関する研修会の講師として積極的に参加させていただいています。

2009年に資格を得て3年が経ちますが、現在も救急看護認定看護師の役割や存在意義を明確化するために自問自答する毎日を送っています。

DMAT訓練2012年10月岡山にて

左から　村上　毅（ムラカミ ツヨシ）救急看護認定看護師
山野上　敬夫（ヤマノウエ タカオ）救命救急センター長
石岡　洋一（イシオカ ヨウイチ）管財課主任

外科医の独り言・・no.16

ー 医者も人間 ー

家族が病気になった時、「身内に医者がいれば安心ですよねえ」、とよく言われることですが果たして本当でしょうか？確かに以前この欄でも少し触れましたが、自分の父親が胃がんになった時には自分で手術をしましたし、親戚からも良く相談を受けます。しかし、案外頼りにならないこともあり（私だけかもしれませんが）、特に自分の子供のことになると医師として冷静に行動できないようです。

もう20年も前の話ですが、当時長男は1歳半で、休みになるとよく連れ出して遊んでいました。ある暑い日、公園で遊んで帰った後どうも様子がおかしいと妻が言うので見るとぐったりしていました。「暑かったし脱水もあるかもしれないけど疲れたんじゃない？水でも飲ましておいたら」、といい加減な診たてをした後、妻はやはり心配になったらしく熱を測ったようです。すると39度以上の熱があり、妻も初めてのことであり大慌て。私も小児科は全く専門外でしたが、まあ医者としてのプライドもあるので、妻を安心させるために、冷やしておけば大丈夫と言い張りました。でもよく見ると息も荒いし一瞬大丈夫かなと不安に思った途端、長男の体がぴくぴくと痙攣をおこし始めたのです。いわゆる熱性の痙攣ですが、その時はヤバいことになった、医者を呼べ!と言いたいけど自分が医者なので言えず、妻の手前慌てることは許されず冷静さを装っていました。当時は宇品に住んでおり、県病院が近かったので休日でもありすぐに急患受付に電話して診てもらうことになりました。その間も右往左往する妻に、「大丈夫だから、慌てるな」と声をかけ、ぴくぴくする息子を見ながらも冷静に対処したつもりでした。大丈夫だと言った手前、救急車は呼べず、自家用車で県病院の救急外来に到着、小児科の先生に診て頂きました。案の定、脱水と熱性けいれんで点滴をしてもらって痙攣も収まり、ほっとした途端何か足もとに違和感をおぼえました。ふと自分の足元を見ると、なんと右足に革靴、左足にサンダルを履いているではありませんか。この時の恥ずかしさは言うまでもありませんが、それ以上に自分も大したことないなあという落胆の方が強かったように思います。あれだけ妻に落ち着け、落ち着けと言っておきながら自分が一番慌てていたという証拠を突きつけられたのです。この時の妻の反応はどうだったか覚えていませんし今更聞く気にもなりません。

私には3人の子供がいますが、そのうち2人の子供が計4回か5回骨折を経験しています。当然最初に診察するのは私でしたが、そのうち間違いなく2回は骨折を見逃しました。まあそうは言っても家でレントゲン検査ができるわけじゃなし、見て触って大丈夫!病院なんか行かなくていい、と言ったのにやはり妻が心配になって病院に連れて行ったら骨折だったという、ただそれだけのことです。

しかし、こういうことが2回も続くと私に相談するまでもなくさっさと病院に連れて行くようになった妻は間違いなく賢母と言えます。

副院長（消化器･乳腺･移植外科主任部長）
板本敏行（いたもと　としゆき）

病棟編　看護部だより

救命救急センター

県立広島病院に、救命救急センターが開設されて、16年目になります。24時間365日、重症救急患者さんに応需できる体制をとっています。当院の救命救急センターには、救急看護、集中ケア、小児救急，摂食･嚥下障害認定看護師をはじめ，有能でやさしい看護師が多く働いています。なかでも一番の自慢は、12人いるすばらしい男性看護師達の活躍です。

チームワーク抜群です！